

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

 TEL 098-868-6895
 FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

思いもよらないものを発見する能力は努力している中にある 天野 浩(名古屋大学大学院工業研究所教授)

1. 窒化物は必ず物になるという信念があったから、実用化を見据え、未来は必ずこうなるという未来ビジョンが見えていた。これは大学で基礎研究をやるにしても必要なことです。成功するか失敗するかは別にして、研究者は、未来は必ずこうなるというイメージを持って取り組むべきだと思います。
2. 自分がどんな未来を築きたいかというイメージが湧いていたら、それをいちばん早く実現できる研究室で学ぶことでしょう。テーマ選びは重要です。私の場合、大学に入ってから本を読み、やりたいことが3年生までに具体化していきました。私は、自分が研究に向いていると思っていません。ただ、できると思ったことは絶対にあきらめない。あとは責任感です。未来に対する責任感と、研究の成功を待っている人への責任感を持つことです。
3. まずは目標を決める必要があります。目標がないと「やらされている感」満載になってしまう。自分なりの目標をきちんと持っていれば、周囲から「苦しいでしょう」と言われるような状況でも、やっている本人は楽しくてしょうがないのです。「棚からぼたもち」と言いますが、棚の下にいなかったらぼたもちは取れない。セレンディピティ(思いもよらないものを偶然に発見する能力)なんて、そんなものあるわけないです。努力しているからこそ見逃さずにつかみ取るわけで、努力がなかったら絶対に成功はない。

(参考:「週刊東洋経済」2014年11月22日号)

ワンポイント経営アドバイス

円安を嘆いている暇はない
永守 重信(日本電産社長)

1. 円安になったのに輸出が増えない。むしろ輸入品の価格が上がって損ばかりだ。そんな円安デメリット論がまかり通っている。これを経営者が言っているとしたら全くおかしい話だ。円高の時には、強い円を使って安いモノを買い、たらふく儲けておいて、円安になったらそれができないから損だというのは、経営を放棄しているようなもの。大事なのは、通貨の変動に影響されない仕組みを常に作り続けていくことだ。
2. 当社は連結売上高、生産高の9割が海外だ。そこでの基本は売上高とコストと同じ通貨にしていくこと。売上高がドルならコストもドルにするわけだ。こう述べると、「そんなことは当たり前だ」と言われる。よく聞いてもらいたい。重要なのは「常に」ということだ。大事なのは「常に」、そして「徹底して」経営を動かし続けること。円安デメリットなどを嘆いている暇はない。

(参考:「日経ビジネス」:2014年11月10日号)

人事労務について

増加するパワハラ

1. 「いじめ・嫌がらせ」に関する相談が急増しています。2002年度には約6600件であったものが、2013年度には約60,000件に増えました。解雇の相談を抜いてトップ(全体の約20%)になっており、中には訴訟にまで発展するケースも見られます。また、いじめ・嫌がらせや職場内のトラブルにより、うつ病などの精神障害を発病し労災認定を受けた件数も、2002年度には100件であったものが、2013年度には436件に増えました。
2. パワハラにあたるか否かの判断では、業務上の合理性や妥当性があるかが問題となります。客観的に仕事に関係していて、かつ必要な程度での指導や叱責は、相手がどう感じたかにかかわらずパワハラには該当しません。皆の前で、何度も長時間、などの表現や回数、態様で判断します。パワハラは上司からだけではありません。ベテラン部下から新任上司、正社員から非正規社員、先輩から後輩、集団によるいじめなども該当します。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014年11月22日号)

古典に学ぶ

黄帝の夢(その2)

(解説) 黄帝は、宮殿の庭の片すみにおりを結び、身も心もきよめ、三月というもの、政治から離れてみた。ある日、黄帝は昼寝の夢に華胥の国へ行った。その国には支配者がおらず、国全体が自然のままにおかれている。人びとは欲望をもたず、なにごとにも自然にまかせている。生に執着もしなければ死をおそれない。だから若死にする者がいない。わが身かわいさに他人をおしのけることもないから、愛憎もうまれない。人を裏切ったり、へつらったりすることがないから、利害というものもない。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)